

図書館だより

長浜北星高等学校
(全日制・定時制)
長浜北星高等養護学校
図書館発行

NO. 1 2019. 4月号

桜の開花とともに、新年度が始まりました。
図書館では、新たな気持ちで充実した学校生活を送れるように、
様々な本を揃えて皆さんの来館をお待ちしています。

新しく入った本の中から

「のび太の月面探査記」

藤子・F・不二雄原作 辻村深月 著 小学館
ドラえもんのみみつ道具を使って、月の裏側にウサギ王国を作ることに。そんなある日、のび太のクラスに謎の転校生がやってきて…。2019年3月公開の同名映画の脚本を手がけた辻村深月が、自ら書き下ろした長編。

「身のまわりのすごい技術大百科」

涌井良幸 涌井貞美 KADOKAWA
あれもこれも「科学技術」の結晶だった！ 家電からハイテク機器、文房具まで、身近なモノのしくみを図を交えてわかりやすく解説。ビットコインや5G、ドローンといった新しい技術も取り上げる。

2019本屋大賞発表！！

「そして、バトンは渡された」
瀬尾まいこ 文藝春秋



新入生も今日から利用
出来ますので、図書館
へ来てね。

「これは花子による花子の為の花物語」
木爾チレン 宝島社
高校時代の人間関係が原因で引きこもりになった花子の唯一の外との繋がりは、「カコ」名義でプレイするゲームアプリ。そこで出会ったレンとメッセージをやりとりするうちに、彼に惹かれていき…。京都を舞台に描かれる恋物語。

「トラペジウム」

高山一実 KADOKAWA

絶対にアイドルになりたい高校1年生の東ゆうは、「4つのこと」を徹底して高校生活を送っているが…。「乃木坂46」のメンバーが描く、アイドルを目指す女の子の

「カラヴァル」ステファニー・ガーバー 西本かおる キノブックス

17歳の少女スカーレットは政略結婚させられる直前に、夢のイベント「カラヴァル」の招待状を受け取る。妹テラとカラヴァルへ足を踏みだすが、まもなく妹とはぐれ、妹を救い出すための冒険が始まり…。胸ときめく物語。

貸出方法が変わります。

図書館で本を借りるときは、
生徒証明書カードを持参し
て下さい。カードに付いてい
るバーコードで貸出を行
います。

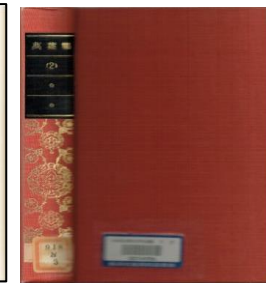
*カードがない場合は、
カウンターへ申し出て下さい。



新着図書の中から

書名・巻次	著者	出版者	請求記号
文系と理系はなぜ分かれたのか	隠岐／さや香 // 著	星海社	002-O
琵琶湖・近江路		実業之日本社	291-B
プラタモリ 15 名古屋 岐阜 彦根	NHK「プラタモリ」制作班 // 監修	KADOKAWA	291-N-15A
滋賀 琵琶湖 長浜 近江八幡		JTBパブリッシング	291-S
南極ではたらく かあちゃん、調理隊員になる	渡貫／淳子 // 著	平凡社	297-W
アイヌ文化で読み解く「ゴールデンカムイ」	中川／裕 // 著	集英社	382-N
身のまわりのすごい技術大百科 雑学科学読本	涌井／良幸 // 著 涌井／貞美 // 著	KADOKAWA	504-WA
絵はすぐに上手にならない デッサン・トレーニングの思考法	成富／ミヨリ // 著	彩流社	725-N
ハイキュー!! 35 鳥籠	古館／春一 // 著	集英社	726-F-35
ハイキュー!! 36 おれの勝ち	古館／春一 // 著	集英社	726-F-36
リラックマのまいにちごゆるり英会話	サンエックス // 監修 リベラル社 // 編集	リベラル社	837-S
発現	阿部／智里 // 著	NHK出版	913.6-A
100万分の1回のねこ	江国／香織 // 〔著〕 岩瀬／成子 // 〔著〕 くらう／なおこ // 〔著〕 井上／荒野 // 〔著〕 角田／光代 // 〔著〕 町田／康 // 〔著〕 今江／祥智 // 〔著〕 唯野／未歩子 // 〔著〕 山田／詠美 // 〔著〕 綿矢／りさ // 〔著〕 川上／弘美 // 〔著〕 広瀬／弦 // 〔著〕 谷川／俊太郎 // 〔著〕	講談社	913-E
小説映画ドラえもん のび太の月面探査記	藤子・F・不二雄 // 原作 辻村／深月 // 著	小学館	913-F
これは花子による花子の為の花物語	木爾／チレン // 著	宝島社	913-K
麦本三歩の好きなもの	住野／よる // 著	幻冬舎	913-S
トラペジウム	高山／一実 // 著	KADOKAWA	913-TA
ラヴレターズ	川上／未映子 // ほか著 村田／沙耶香 // ほか著	文芸春秋	914-K
カラヴァル 深紅色の少女	ステファニー・ガーバー // 著 西本／かおる // 訳	キノブックス	933-G

新元号は「令和～れいわ～」に決定。



人建部牛麻呂これなり。

梅花の歌三十二首并せて序

天平二年正月十三日に、帥老の宅に萃まりて、宴会を申ぶ。

時に、初春の令月にして、氣淑く風和く梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす。加以曙の嶺に雲移り、松は羅を掛けて蓋を傾く、夕の岫に霧結び、鳥は縋に封ぢられて林に迷ふ。庭に新蝶舞ひ、空に故雁帰る。

ここに、天を蓋にし地を坐にし、膝を促して

梅花の歌三十一首と序

天平二年正月十三日、大宰帥旅人卿の邸宅に集まって、宴会をくりひろげる。

折しも、初春正月の良月で、氣は良く風は穏やかである。梅は鏡の前の白粉のように白く咲き、蘭は匂い袋のように香っている。そばばかりではない、夜明けの峰には雲がさしかかり、松はその雲の羅をまとい、蓋をさしかけたように見え、夕方の山の頂には霧がかかって、鳥はその霧の縋に封じこめられて林の中に迷っている。庭には今年の新蝶が舞っており、空には去年の雁が帰って行く。

そこで、天を屋根にし地を席にし、互いに膝を近づけ酒杯をまわす。一堂の内では言うことも忘れるほど楽しくなごやかであり、外の大気に向かっては心をくつろがせる。さっぱりとして各自気楽にふるまい、愉快になって満ち足りた思いである。

もし文筆によらないでは、どうしてこの心の中を述べ尽くすことができようか。漢詩に落梅の詩篇が見られるが、古も今もどうして立場の違いがあるうか。ここに庭の梅

六七

本校所蔵
「日本古典文学全集 3 万葉集 二」
小学館 より